

東大病院だより

表題：海野濤山書

No. 45



文京区それぞれの枝垂桜。かつては、それぞれの地に藩名の違う大名屋敷があった。今は、名残りの庭園と季節になると咲き誇る枝垂桜が人々を楽しませてくれる。(写真左上：六義園、写真左下：小石川後楽園 写真右：東大安田講堂前)

CONTENTS

- ◆ 東大病院の新たな船出 …………… (永井) ……2
- ◆ 新しい病院組織について …………… (櫛山) ……3
- ◆ 新立体駐車場のご案内 …………… ……4
- ◆ <東大病院の“遺産”シリーズ 5> 麻酔科 …… (矢島・花岡) ……5
- ◆ 東大病院創立150周年に向けて
第4回“第3代医学所頭取・
松本良順の江戸幕末から明治の活躍” …………… (加我) ……6
- ◆ 手術件数の増加と中央診療棟Ⅱ期工事 …………… ……8
- ◆ 伊賀立二薬剤部教授歓送会 …………… ……9
- ◆ 東大病院地域医療へ貢献 ～八丈島フリージア娘が来院～ …………… ……9
- ◆ 出来事 …………… ……10
- ◆ 東大キャンパスの“花鳥風月” …………… ……12

東大病院の新たな船出



病院長 永井良三

4月1日より国立大学は法人化され、東大病院は国立大学法人東京大学医学部附属病院となりました。

国立大学の法人化は、病院運営に文部科学省の指導が少なくなる反面、経営改善を強く求められることを意味しています。これまで国立大学病院は国の機関であったために、経営上の心配は余りありませんでした。そのため東大病院の職員は患者様のためになると信ずる医療を提供することができました。しかしながら、医療費抑制が求められる中、大学病院の経営も改革が必要です。一般病院では難しい検査や治療を提供し、良い治療成績を残すだけでなく、患者様の満足度や効率性を同時に追求する時代となりました。

東大病院の最優先課題は、医療の質や安全を確保しつつ、より高度の医療を提供することです。東大病院も過去数年間にいくつかの医療事故を起こしました。医療事故を防止するには、安全意識の向上が常に必要です。患者様の声に耳を傾け、各科や部の職員ではなく病院の職員であることをまず自覚していただきたいと思います。医療安全対策室からの注意喚起にはいつも気をつけてください。

病院運営、とくに経営上の困難は、前回の病院だよりに掲載させていただきました。東大病院の一般診療経費は年間約330億円が必要です。これは病院建設に必要な借入金返済62億円を含みますが、病院収入250億円との差額は80億円あります。この80億円は運営費交付金として補助されますが、毎年収入の2%、すなわち5億円ずつ5年間にわたって削減されていきます。5億円削減の影響を最小限にするためには、単に病院収入を5億円増加させるだけでは足りません。薬剤や医療機材などの経費が必要だからです。実際は毎年11億円ほど増収しなければ、毎年5億円の交付金削減に対応できません。しかも年間

の経費は定まっていますので、経費節減を図りつつ毎年5億円の増収を目指すのは至難の業です。包括医療制度を十分活用するとともに、検査や治療に必要な経費をできるだけ節減しなければなりません。なお今回の医療費改定によりハイケアユニット加算が認められました。東大病院はすでにハイケアユニットが稼働していますので、重要な増収源となります。しかしながらハイケアユニット加算は病院全体の平均在院日数が17日以下でなければなりません。現在の東大病院の平均在院日数は約20日ですので、徐々に短縮を進める予定です。

新しい病院体制では、まず病院の外に病院運営審議会（通称、病院ボード）を設置しました。この病院運営審議会は、主要予算と人事、定員再配置、組織再編成について、執行部からの諮問に答申し、執行部はその答申を尊重して執行します。病院運営審議会は総長指名者2名、医学系研究科長、副医学系研究科長1名、病院長、事務部長、病院長指名者2名、外部有識者1名の計9名から構成されます。病院執行部は、病院長と副院長4名、事務部長、看護部長、その他病院長の指名による若干名により構成され、病院運営審議会の指導の下に、病院運営に関する最終的な意志決定を行います。また、診療科（部）長に任期を設定し、適宜、病院体制の見直しができるようにしました。なお、病院長や執行部のチェック機構として、運営審議会（ボード）と執行諮問会議に病院長の罷免権を持たせています。さらに各診療科（部）の運営は、外来診療部、入院診療運営部、中央診療運営部、医療評価・安全・研修部、企画経営部、人事部、教育研究支援部の7つの部の指導下に入ります。これにより各診療科（部）は病院全体の機能と調和しながら、それぞれの役割を果たしていくことが求められます。診療運営部や運営支援部では、各科（部）を代表する部員とともに協議を行い、「患者中心の医療」をいかに東大病院で展開するかを考え、実行していく方針です。

大学病院の法人化は多くの困難を伴っています。しかしこれは、東大病院にとって一つの好機でもあります。東大病院から日本の医療体制を変革する情報を発信していただきたいと思います。職員の皆様のご理解と多くのご提案を期待しております。

新しい病院組織について



事務部長 榊山 博

いよいよ国立大学法人 東京大学医学部附属病院となりました。昨今の国立大学病院は医療保険改革、行財政改革などの国レベルの問題や医療事故、医師派遣などの社会的な問題など様々な波をまともに受けながらも、それらに対応しながら我が国の医療水準の向上、救急医療などによる地域との連携など様々な取り組みを行ってきました。このような中で、国立大学法人化という国立大学にとってこれまでにない転換を迎えました。

すでに皆様ご存じのように、国立大学法人は国からの運営交付金といわれる補助金と病院収入や授業料・検定料などの収入によって自らが大学を運営していくものです。その国からの運営交付金も教育研究部分にかかる部分については16年度支出予算額の1%、大学病院については、16年度の収入予定額の2%に相当する金額が17年度以降毎年上乗せされて削減されることが決まっています。このように財政的に厳しい中であっても、東大病院は社会や国民の期待に応え、我が国の医療をリードしていくことが必要であり、社会もそれを求めているものと思います。

法人化に伴って医療の本質は変わるものではありません。しかしながら、国家公務員法の適用から労働基準法等の適用への変更や自己収入による運営など制度や仕組みは大きく変わってきますので、認識を新たにすることが必要となります。我が国においてはこれまで国鉄がJRに日本専売公社が日本たばこ産業に変わってきたように、大学病院も良い方向に

変わっていく必要があります。

東大病院は基本的な組織の変更はないものの、その運営方法は大きく変わります。その一つが執行部による病院運営です。これまでは病院運営会議や病院会議を経て意志決定を行い実行に移してきましたが、今後はより迅速に判断を行い実行できるようにするため執行部が責任をもつ仕組みとなります。また、総長指名者や学外者などによる病院運営審議会を設け、病院運営に関する病院からの諮問への答申や病院に対する意見を述べていただくこととしております。


診療面では、これまで各診療科単位で行っていた外来診療や入院診療を、東大病院の外来診療部、入院診療部、中央診療部としてこれまでの各科縦割りから横断的組織として運営を行うこととなります。

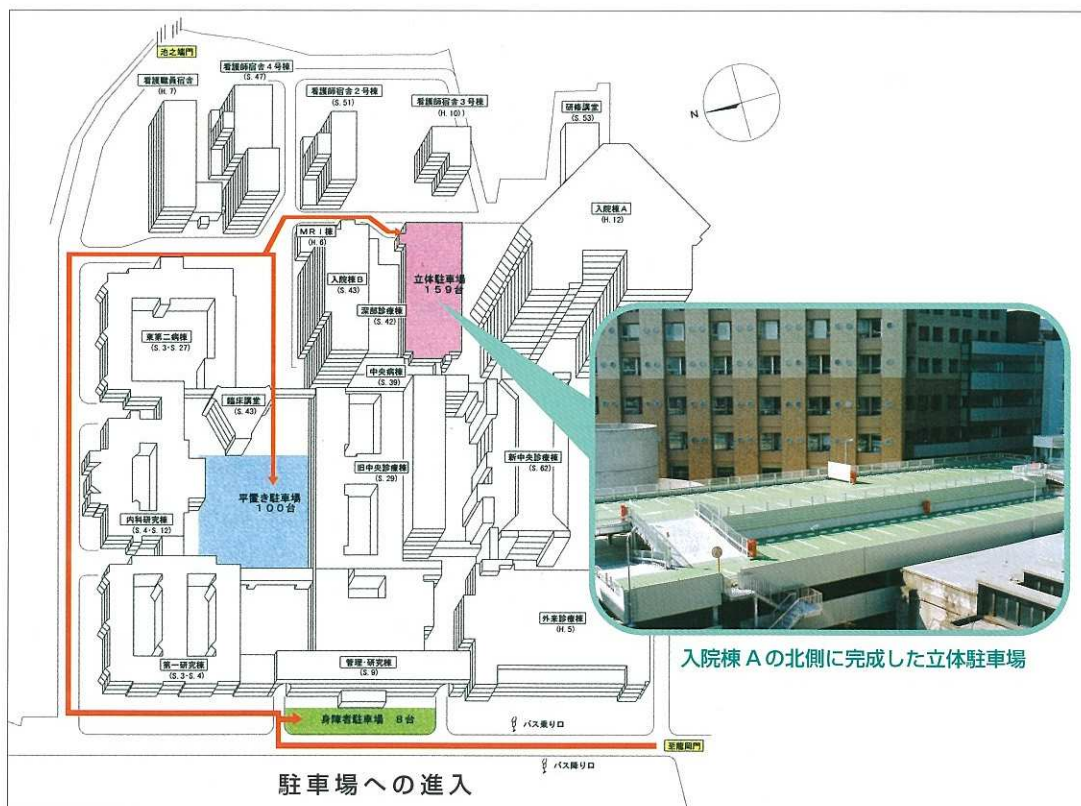
一方、医療事故対策や医療の質の向上、臨床研修や教育研究の支援を行うために、医療評価・安全・研修部、教育研究支援部、企画経営部、人事部を設けました。これらの各部により法人化後の様々な課題に対応していくこととなります。特に、医療評価・安全・研修部は、医療の質の向上や標準化、医療安全対策、卒後臨床研修と教職員の院内研修をより密着した仕組みの中で推進していくものです。この組織が効果を発揮すれば東大病院の医療水準や医療安全対策は我が国をリードするものになると確信しております。

今後、執行部を中心とした病院運営が進められますが、執行部のみで優れた病院運営が行えるものではありません。東大病院の教職員をはじめ、東大病院を取り巻く様々な人たちがいろいろな意見や提案を出しながら東大病院を育てていくものだと思います。今まで以上に現場からの提案や東大病院を外から見てのご意見などを、お寄せいただくようお願いいたします。

新立体駐車場のご案内

中央病棟跡地に建設中であった立体駐車場（患者様専用駐車場）が完成し、4月7日（水）12時00分から供用を開始した。駐車するまでの時間がかかりすぎるなどのご意見が多数寄せられていたが、この供用開始により、駐車場入場までの待機時間が緩和されることとなった。

1. 利用時間 7時30分～20時30分
2. 駐車台数 159台（3段の合計。各段とも53台。）
3. 駐車料金 患者様（付添者含む）は3時間まで100円、3時間をこえる30分ごとに50円が加算されます。また、駐車料金については他の利用区分がありますのでご注意ください。
4. 接続 駐車場2階部分と既設建物1階部分が渡り廊下で接続されています。また上下移動は、エレベータ（車イス対応）または階段となります。
5. 構造・規格 鉄骨造2層3段。自走式立体駐車場。
6. 建築面積 1512.24m²
7. 延べ面積 2935.33m²
8. 駐車場への進入 龍岡門（春日通り方向）から進入いただき、下図の進入経路（)を参考に駐車場へお進み下さい。退出経路は進入経路の逆となります。



<東大病院の“遺産”シリーズ5>

麻 醉 科

生体管理医学講座麻酔学 矢島 直・花岡一雄

東大が関係する麻酔の遺産を歴史に沿ってご紹介します。

華岡青洲：1804年10月13日華岡青洲が、世界で初めて全身麻酔下での乳癌手術に成功しました。これは Morton に先立つこと42年前です。この日を記念して、社)日本麻酔科学会では10月13日を「麻酔の日」と定め、麻酔科学の啓発のための市民参加型イベントを開催しています。青洲は蔓陀羅華(朝鮮朝顔)を主成分とする経口麻酔薬「麻沸散」の開発に成功し、全身麻酔下に各種の手術を行いました。青洲の麻酔法は明治30年頃まで用いられました。

写真1は2002年当教室のベランダで咲いた青洲ゆかりの蔓陀羅華の花と果実・種子を撮影したものです。一年草のため今は種子のみですが、当教室で保管しています。ご希望の方にはお分けします。葉と種子を薬用にします。葉や茎、根などをまちがえて食べたり、汁が皮膚や目につくと、はげしい中毒症状や炎症をおこします。



写真1

開放点滴法によるエーテル麻酔：近代麻酔科学の夜明けとも言われる William. T. G. Morton の「エーテル公開実験」は、米国ボストン MGH (Massachusetts General Hospital) で1846年10月16日に行われました。**写真2**は



写真2

当時 Open Drop (開放点滴法) で用いられていたマスクです。MGH の Ether Dome (小さな階段式の臨床講堂ですが、1965年に National Shrine に指定されました) に保管されている世界的遺産です。当教室からは毎年 1、2 名が Harvard Medical School (HMS) へ留学しているため関係があり此所に載せました。下顎血管腫切除術のエーテル麻酔を初めて成功させた10月16日を Ether Day として記念日にしています。開放点滴法で麻酔するには、まず患者の両目を布で覆ってエーテルによる角膜損傷を避けます。写真のマスクの上に布やスポンジを置いて、その上にエーテルを滴下しました。マスクの下には細いゴムチューブを置いて酸素を流しておきました。このような麻酔の仕方では、およそ300例の麻酔で 1 人気道閉塞による死者が出たといえます。

気管挿管：気管挿管の技術は、呼吸蘇生の目的で16世紀頃から行われていましたが、これを麻酔に応用した気管麻酔は20世紀になるまで行われませんでした。我が国

には米国で普及しつつあった気管麻酔法を Mayo Clinic に留学していた永江大助先生(昭和4年卒)が1938年に帰国して紹介しましたが、第2次世界大戦が勃発したため普及しませんでした。

麻酔学講座新設：終戦後も、アヘナルカロイドとスコポラミンの併用による基礎麻酔に、局所浸潤麻酔か脊椎麻酔を併用するという方法が主流を占めていました。

写真3は1949年に第2外科(木本誠二教授)の林周一(昭和16年卒)、綿貫 喆(昭和17年卒、後に東北大学麻酔科教授)両先生が泉工医科器械工業株式会社を指導して作成した記念すべき国産第一号閉鎖循環式麻酔器です。



写真3

1950年7月に米国から医学教育団が来日し、講習会が行われました。麻酔関連の講師として M. Saklad 教授が講義し、第1外科の清水健太郎教授が通訳しました。この講義を聞いた日本の外科医たちは、近代麻酔科学を駆使して胸部外科や脳外科など自在に行われている状況に驚いて、麻酔科学の重要性を改めて認識しました。

1952年7月第1外科の山村秀夫先生が第1外科助手から助教授に昇任され、麻酔学講座主任になられ、日本最初の麻酔科が東大に開設されました。1956年4月には山村先生が教授に、第2外科ご出身の稲田豊先生が助手から助教授に昇任され、完全講座となりました。



写真4

写真4は1951年に戦後初めて輸入され臨床に活躍した米国 Ohio chemical Co. の Heidbrink 3333型麻酔器です。人工呼吸器は附属せず、シンプルな構造になっています。フローメータとバルブの位置に注目して下さい。酸素(緑色)が右端(2連式)で、その左に亜酸化窒素(青色)があります。さらに左の赤色のフローメータは、サイクロプロパン用のものです。左端の無色のフローメータは空気用です。

写真5は1968年頃発売され日本に輸入されたドイツ Dräger 社の Narkose-Spiromat 650型麻酔器です。これは長期人工呼吸治療にも使用できるレスピレータを兼ね備えたもので、機能的にも従来のレスピレータに比べて優れた特徴を持っていました。当時としては珍しく従量式調節呼吸 (Volume control ventilation) を主体としたレ

スピレータで吸気終末に短時間気道内圧をホールドする時期 (static inspiratory phase) を有していました。また、呼気終末陽圧呼吸 (PEEP) が可能で、吸気時間と呼気時間の比 (I/E比) を 1:1 から 1:4 まで変えることができました。さらに、患者の吸気運動による気道内陰圧をトリガーとして補助呼吸を行うことも可能でした。現在から見ても見劣りのしない機能を持った麻酔器でしたが、とにかく大きくて重いのが玉に瑕でした。

1988年に新診療棟の手術室へ移転するまでは、旧手術室の倉庫 (普段使わない手術室) に、ここで取り上げた麻酔器を含め、麻酔科の遺産はゴロゴロしていました。現在は、泉工医科器械工業株式会社の創業者である青木氏



写真5

が作った「医科機械資料館」(千葉県印旛郡印旛村鎌州2043、財団法人 日本医科機械資料保存協会)の第7展示室に静かに眠っています。

写真4, 5を見ておわりの通り、フローメータとバルブの位置が違います。写真5では写真4と逆で、右から順に亜酸化窒素(青)、空気(黄)、酸素(緑)です。現在の日本の規格は右から酸素、亜酸化窒素、空気となっています。米国流、欧州流の麻酔器が混在していて、無意識にバルブを廻すと酸素と亜酸化窒素を間違える仕組みになっていました。

以上、簡単に東大麻酔科に関する「遺産」について述べさせて頂きました。麻酔に関するものは物が大きいので、すぐ手にとってごらん頂くわけにはいきませんが、医科機械資料館へ行けば麻酔器ばかりでなく、心電図、電気メス、手術台、人工心肺装置など興味深い麻酔科の遺産に多数ふれることができます。

東大病院創立150周年に向けて

第4回 “第3代医学所頭取・松本良順の江戸幕末から明治の活躍”

東大病院だより編集委員長 加我君孝



若き日の松本良順



晩年の松本良順

東京大学医学部要覧を開くと、東京大学前の時代は、幕末のお玉ヶ池種痘所、医学所、西洋医学所、明治に入ると大学東校と名称が目まぐるしく変わる。それぞれの責任者は“頭取”と呼ばれた(表)。

江戸幕府は安政5年に始まった種痘所を官営として医学所と名を変えた。初代は大槻俊斎、2代目は大坂から呼んだ緒方洪庵である。その副頭取が松本良順であった。洪庵が6ヶ月で急死したため、まだ31歳の松本良順が頭取となった。松本良順(以下良順)は西洋医学を学んだ蘭方医で将軍の奥医師で、新選組を支援したり、戊辰戦争では東北で治療にあ

たった。明治政府の要請で陸軍軍医監となった。西洋の合理主義を身につけながら、時代が変わっても徳川幕府への恩義を貫いて生きた快男児であった。

良順は蘭方外科の佐藤泰然(順天堂の開祖)の次男として天保3年(1832)に生まれた。松本良甫(奥医師)のところへ17歳の時に養子に入った。漢方の試験にも合格した。その後、長崎で西洋医学を本格的に学びたいという気持ちが強くなり、25歳の時に幕府の許可を得て、長崎へ向かった。幕府は軍事の近代化のために海軍の軍事や西洋医学を教える目的で長崎に海軍伝習所を創設し、医学の教官としてオランダからボンベを招いた。長崎大学医学部はこれより始まったことになる。ボンベはそれまで断片的な教育しかされなかった蘭学を初めて基礎医学と臨床医学を系統的に教えた。良順は5年にわたってボンベに学び、かつその有能さを買われ、ボンベの高弟となりオランダ留学すすめられたが、若い学生に留学をゆずり江戸で学んだことを教える道を選んだ。5年の長崎留学より戻った江戸は、開国をめぐる幕末の不穏な時代であった。医学所は大坂より緒方洪庵が頭取となっていた。31歳の良順はその副頭取となって助けたが、洪庵が江戸へ来て、わずか半年で亡くなったため、若くして3代目の頭取となった。将軍は家茂であった。家茂が京都へ上洛の際に奥医師の一人として同行し、同時に近藤勇の要請で将軍の警護にあた

る新選組の屯所を訪ねた。実はそれより前に浪士の近藤勇が江戸の医学所の松本良順のとこを訪れ、国内外の政治の動向を聞きに来たことが機縁となった。良順は西洋と日本の国力は大砲と刃ぐらゐの違ひがあり、外国を受け入れざるを得ない状況にあることを説明した。列強国が中国やインドの植民地化を狙って進出しており、日本も狙われていることも話した。近藤勇は別の日には自分の皮膚病の治療にも来たりしたので親しくなった。良順は西本願寺にあった屯所が不衛生極まりなく病気の蔓延も多数あり、近藤勇に別に病室を作り治療すること、残飯は豚を飼って食べさせ、太らせた後は豚肉にして食べる、二ワトリも飼って育て卵を食べさせることなど、衛生と食生活を改善するように指導した。それを直ちに実行したのが土方歳三である。彼は11歳の頃、御徒町の松坂屋に奉公にでていたが性に合わないで家に逃げ帰り家業の薬を販売したりもしたが剣の道を進む。

幕府軍が鳥羽伏見の戦い(1868)で敗北し、参戦し負傷した新選組隊員が船で大阪から江戸に運ばれ、良順は医学所から学生を率いて今戸の寺院で治療にあたった。幕末は風雲急をつけ、官軍が幕府側を圧倒、幕府側の一部が北陸・東北へ官軍に追われながら戦いを続ける。これが戊辰戦争である。良順は幕府側の負傷者の治療のために一緒に行動する。医学所はそのため林洞海が頭取となった。会津若松では明治新政府軍に抗戦する会津藩の負傷者を藩校の日新館で治療にあたった。一方、官軍側の“病院”の治療の責任者は西郷隆盛が起用した英国人医師ウィリス(後に東大病院の初めての院長となる)であった。良順は榎本武揚(函館戦争で北海道共和国を樹立し独立しようとした指揮官)からの要請で仙台に向かった。日本の将来について話し合われた。土方は「良順の考えが今後の日本の方向と思うが自分達は幕府とともに死ぬ道を選ぶ。先生は前途有望な医師なので行動をともにしないほうが良い」と説得される。良順は、たまたま知り合いのオランダ人の船が仙台に来ていたので乗船して横浜に戻り、潜んでいたが官軍につかまり、加賀屋敷(現在の東大)に幽閉される。

良順は2年間幽閉された後、知人のオランダ人が活動資金を提供してくれたので早稲田の近くに医院を作り開業した。それから間もなく、山縣有朋(後の首相)が訪ねて来て、新政府の陸軍軍医監になるように要請した。良順は自分のこれまでの行動は明治新政府に対する敵対行動であると述べ断わった。しかし山縣は新政府は新しい国の建設のために有望な人材を欲しており、敵味方は問わないと説得し、これに応じたことになった。良順は近代的な軍事医学を発展させた。良い獣医にも欠いたため獣医学も担当することになった。この陸軍の医師のトップとしての地位はその後森鷗外や東大耳鼻科の3代目の教授の増田胤次が就くことになる。

このようにして劇的な生涯を送った良順の70歳の古希のお祝いが上野精養軒で北里柴三郎、金杉五郎(わが国の耳鼻咽喉科のバイオニアで慈恵医大の初代教授で活躍はこれだけに止まらない)など良順を敬愛する医師300人が集まり盛大に行われた。良順の他の活動を2つ紹介する。

牛乳飲用奨励運動。「日本の牛乳飲用事始め」に松本良順は大きく貢献した。「国民の健康維持のために牛乳が欠かせ

ない。また、牛乳の搾取業は社会的にも意義のある仕事である」と説いた、しかし当時は和牛しかおらず牛乳の量が少なくて困ったという。

大磯に日本最初の海水浴場を開く。「国民大衆の健康を高めるには、海水浴に勝るものはない」と信じ、軍医総監を退いたあと、日本各地を巡って海水浴場の最適地を深く求めていた。適切な条件に大磯の照ヶ崎海岸が合致し、明治18年(1885)に開設された。明治20年に東京一府府間に東海道線が開通した。松本良順は大磯駅の設置にも尽力をした。大磯町民は彼の徳を慕い、妙大寺の西の千坪あまりの土地を別荘地敷地用に進呈した。早速別荘を建て、家族を呼び寄せ終の棲家とした。大磯の最初の正月に「軒ごとに風新しき初日の出」の句を詠んだ。グルメ・音楽・芝居・書画・骨董などの趣味人の松本良順は大磯町民に敬愛されつつ、明治40年(1907)に大磯で没した。その墓所は妙大寺にある。照ヶ崎海岸には「松本良順謝恩碑」の石碑が建立されている。松本家はその後3代が東大耳鼻科と縁が深い。松本良順の息子に松本本松がいる。明治40年東大耳鼻科入局で東京医専の耳鼻咽喉科の教授。本松という名は良順が柳橋の料亭にいる時に松本姓を反対にしてつけたものである。本松の息子は銚太で昭和18年東大耳鼻科入局。その息子の和彦氏も昭和54年東大分院耳鼻科入局で現在豊島区で耳鼻咽喉科医院を開業している。和彦氏も豪快で反骨の気性の先生で、松本良順の性格を受け継いでいる。東大医学部150年の歴史の中で松本良順ほど劇的な人生を送った人物はいない。司馬遼太郎が松本良順を主人公にして1983年に「胡蝶の夢」を著したが、その人生が創作欲を刺激する素材である。

小生は土方歳三が戊辰戦争で敗走するなかで仙台で「自分は剣の道しかないが先生は江戸へ帰り患者に尽くすよう」に諭したことに感謝したい。

表：歴代医学部長

【東京大学以前】

大槻俊斎(頭取)	安政5(1857)	5.8
緒方洪庵(頭取)	文久2(1862)	閏8.4
松本良順(頭取)	文久3(1863)	7.
林洞海(頭取)	慶応4(1868)	4.12
前田信輔(取締)	慶応4(1868)	7.8
緒方惟準(取締)	明治元(1868)	10.25
石神良策(取締)	明治2(1869)	1.17
佐藤尚中	明治2(1869)	12.
長谷川泰	明治5(1872)	9.14
相良知安	明治5(1872)	10.8
長与専斎	明治7(1874)	10.3

【東京大学以降】

池田謙斎(総理)	明治10.4.13~明治14.6.15
長与専斎(心得)	明治10.4.13~明治12.3.4

⋮

参考文献

- 1) 松本 良順：松本順・長与専斎自伝 東洋文庫386. 平凡社 1980
- 2) 司馬遼太郎：胡蝶の夢(1~4) 新潮文庫 2002
- 3) 黒川 鍾信：東京牛乳物語一和田牧場の明治・大正・昭和 新潮社 1998

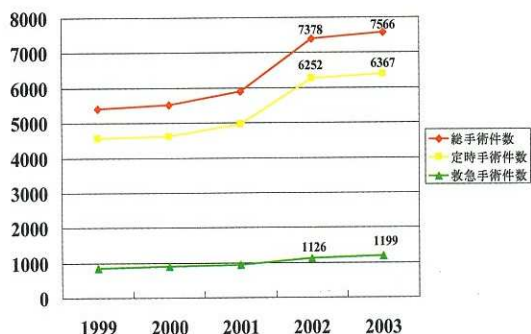
手術件数の増加と中央診療棟Ⅱ期工事

東大附属目白台分院が2001年6月に正式に閉院し、本院と統合されたのは2001年7月で、その時点ではまだ旧病棟が使われていた。本院の新病棟が2001年9月に稼動するようになり、統合の本格的な姿がはっきりしてきた。同時に病院運営がすっかり変わり、現在の立派な病棟は2004年になってほぼ満床の状態が続いている。一方、手術室については、分院の分がなくなってもかかわらず、本院の手術室はこれまでと同じであるために手術室不足が生じている。もう一つの大きな理由は、(図1)に示すよう

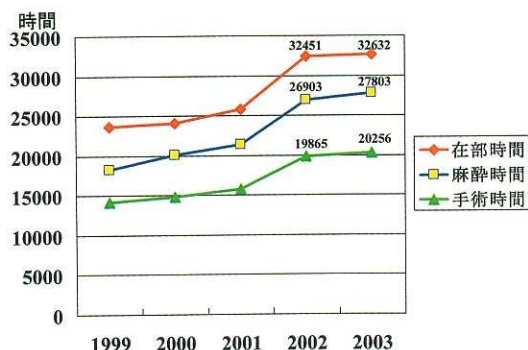
に、定時手術件数、緊急手術件数も毎年増加傾向にあり、2000年に比し、2003年は総手術件数が約40%増である。手術室の在部時間もそれに伴い大幅に増加していることがわかる(図2)。中診Ⅱ期工事が終了すると4階が手術室となり、11室が新たに増える。それと同時に外来手術もこのフロアを使って始まる。これを稼動させるに足る麻酔科医と看護師が新たに必要となる。

(資料提供：手術部長・重松宏助教授)

中央手術室手術数の年次別推移 (図1)



中央手術室利用時間の年次別推移 (図2)



中央診療棟Ⅱ期工事 (H16年 4月)

伊賀立二薬剤部教授歓送会

東大病院薬剤部長として14年間活躍された、伊賀立二教授の臨床系の教授の歓送会が臨床主任の加我君孝教授の企画で、池之端のソフィテル東京ホテルにて3月10日に開催された。参加者24名で、永井良三病院長のねぎらいと感謝の言葉から始まり、加藤進昌前院長の贈る言葉と乾杯で会が始まった。途中で、女性外科の小島俊行講師の手品が披露されたり、終始和やかな会となった。

伊賀立二教授は謝辞の中で薬に関する事件がしばしば起き、その対処に追われたり、薬剤師の病棟配置、手術室・麻酔科用に麻酔関連の薬剤のセットを提供するなど、激動の時代で多忙で重責であつたと述べられた。東大病院に別れをつける日があと20日ばかりになったことで、毎日指で数えて楽しみにしているとのことであった。

4月からは新しく薬学系の大学の立ち上げに取り組むと話された。



左から4人目が伊賀立二教授

東大病院地域医療へ貢献

～ 八丈島フリージア娘が来院 ～



永井病院長への花束贈呈



患者さまに配られるフリージアの花束



女童(めならべ)のおふたりと東大病院関係者

3月18日(木)午前9時、八丈島から黄八丈姿のフリージア娘が本院に來訪し、紫・黄・白・ピンクなど彩りも鮮やかなフリージアが本院に贈られました。

本院の地域医療活動のひとつとして、八丈島へは小児科医師・精神保健カウンセラーの派遣及び消化器内科からは月2回定期的に医師が診察に赴いています。そ

の貢献に対しお礼の意味を込め、第38回八丈島フリージアまつり3月20日(土)開幕に先立つ恒例の島外キャンペーンの一環として八丈高校卒業の女童(めならべ)おふたりが本院へ來訪されました。

贈られたお花は、東大病院の患者さまにも配られ、病院全体が甘い春の香りに包まれました。

出来事

平成16年1月～4月

1月5日(月) 院内専用ホームページ MULINS (マリンス) の改訂

院内の業務連絡に利用されるホームページが改訂され、トップページが見易くアクセスも便利になった。



MULINS トップページ

1月6日(火) 災害時非常用飲料水の無償提供

(財)好仁会のご好意により災害時非常用飲料水の無償提供提案が次のとおりあった。

1. 院内にて(財)好仁会が管理する自動販売機内商品の無償提供。
2. 各スタッフステーションには、飲料水(松原 湧泉水1リットル 10本入)2箱の無償提供。
3. 入院棟売店・外来売店商品の無償提供。(栄養管理委員会)

1月13日(火)・2月9日(月)・3月10日(水) アナフィラキシーショック時等の救急蘇生研修

日時: 1月13日(火)、2月9日(月)、3月10日(水)、時間はいずれも17:30～19:00
 場所: 臨床技能実習室(旧中央診療棟3階、ICU 医局隣)
 定員: 各10人(医師、看護師等)
 内容: 1. 救急カート搭載品の説明
 2. 人工呼吸実習
 [総合研修センター]

1月14日(水) 警察官立ち入りによる防犯強化

本日の臨時病院会議で承認を得て、この日から監視庁本富士警察署のご協力のもと私服警察官立ち入りの防犯強化が実施されている。

1月15日(木) 第2回 再生医学カンファランス

時間: 18:00～19:00
 場所: 入院棟A10階 カンファランスルーム
 演題: 「新しい血管新生療法の開発—機能する側副血路を作るにはどうしたらよいか?—」
 (担当) 血管再生医療講座 小山博之 助教授 (ディッシュ・エンジニアリング部)

1月16日(金) 血中薬物濃度検査 (TDM) オーダーマニュアルを院内ホームページおよび診療端末の「診療システムマニュアル」に掲載。 [企画情報運営部]

1月20日(火) リスクマネジメント研修 (講演会)

マリリン・モンロー、ロバート・ケネディ、ナタリー・ウッドらの検視に関わり、日本の法医学、警察科学への貢献により平成11年秋の叙勲で勲三等瑞宝章を受章した Thomas T. Noguchi 氏が講演した。Noguchi 氏は東大病院で修業生終了後1952年に渡米し、ロス検視局での検視業務、世界医事法医学会での副会長としての活動、また、南カルフォルニア大学病院外傷外科センターで医療安全査定委員に携わるなど豊富な経験をもとに、お話いただいた。



講演の Thomas T. Noguchi 氏

時間: 18:00～19:30
 場所: 入院棟A15階 大会議室
 演題: 「法医学者から見たアメリカの医療安全対策について」
 [医療安全管理対策室]

1月21日(水)～23日(金) リスクマネジメント研修 (医師対象)

日時: 1月21日(水) 18:00～19:00
 1月22日(木) 18:30～19:30
 1月23日(金) 17:30～18:30
 場所: 入院棟A15階 大会議室
 [医療安全管理対策室]

1月22日(木) 介護保険主治医研修会

時間: 17:00～19:00
 場所: 入院棟A15階 大会議室
 研修内容:
 (1)「介護保険制度における主治医の役割について」
 東京都医師会地域福祉委員会委員 山崎 隆夫
 (2)「要介護認定の仕組みと基準」
 東京都福祉局 担当者
 (3)「主治意見書の記載方法」
 医療社会福祉部講師 長野宏一郎
 [東京大学医師会・医療社会福祉部・総合研修センター]

1月26日(月) 術瘻対策に関する講演会

時間: 17:30～18:30
 場所: 入院棟A15階 大会議室
 対象者は主として看護士
 講演者: 医学系研究科・老年看護学分野教授 真田弘美
 [術瘻対策委員会]

1月28日(水) 平成15年度 海外研修等報告会

時間: 17:30～19:00
 場所: 入院棟A15階 大会議室
 内容:
 1. 東大病院オーストラリア海外研修
 訪問機関: セント・ビンセント・ホスピタル (メルボルン) シドニー大学
 ロイヤル・プリンス・アルフレッドホスピタル (シドニー)

プリンス・オブ・ウェールズホスピタル (シドニー)

派遣者:
 平井優美 主任副看護師長 (入院棟A4階北) (入院棟 A14階南)
 誌坂悦子 (入院棟 A14階北)
 本島信子 (入院棟 A11階南)
 藤田智子 (入院棟 A7階北)
 片岡ヤス子 (手術部)
 磯島英子 (事務部医事課)
 鈴木浩之 副技師長 (放射線部)
 飯田泰人 主任技師 (放射線部)
 井野野司 副技師長 (輸血部)
 菅根信治 主任技師 (検査部)
 滑川妙子 (検査部)
 2. アフガニスタン専門家短期派遣 (JICA)
 派遣者: 小林志保子 看護師長 (入院棟A4階南)
 [総合研修センター]

1月29日(木) 第1回実地漢方セミナー

第1回は入門編として漢方の概念の中で診断治療に最も大事なポイントを症例提示して行われた。
 時間: 17:30～18:30
 場所: 入院棟A15階 大会議室
 内容: 「どこまで効くか、役に立つ漢方」
 岡部哲郎 (生体防御機能講座・呼吸器内科)
 [総合研修センター]

2月5日(木) 「医療事故防止対策マニュアル」の院内HP掲載

これまでの冊子閲覧から Web 上で閲覧できるように改善された。
[医療安全管理対策室]

2月6日(金)、25日(水) カルテの書き方講習会 (研修医対象)

—患者と医師を守るカルテ—
 時間: 両日とも17:30～19:00
 場所: 入院棟A15階 大会議室
 講師: 総合研修センター長 北村 聖
 同 講師 関根信夫
 [総合研修センター]

2月12日(木) 接遇マナー研修

1回目: 17:15～18:15
 2回目: 18:30～19:30
 場所: 管理研究棟2階 第一会議室
 講師: サービス接遇指導士 萩原久美子 (株)ニチイ学館

2月17日(火) 東京大学評議会で病院規則が改正承認

4月1日からの国立大学法人化に伴い病院執行部新設や外部からの意見反映をとりいれる病院運営審議会新設など、東大病院の組織・運営体制の刷新を行うため、その根本規則となる「東京大学医学部附属病院規則」の全部を改正する規則が、東京大学評議会で承認された。また、15条からなるこの規則は、2月25日付け学内広報 (No.1282) に掲載された。

2月17日(火)～3月8日(月) 代議員、従業員代表者の選出

4月1日からの法人化に伴い教職員は国家公務員から従業員へ、また、雇用規程も国家公務員法から労働基準法へと変わると、2月17日佐々木毅東大総長により、教職員向け通知「就業規則作成・労働基準法等所定の各種協定締結のための教職員過半数代表者選出のお願い」が発出された。
 これを受け東大病院はただちに選挙管理事務局を組織し、2月19日選挙管理事務局は、代議員の選出選挙および従業員代表者の信任投票についての日程等を病院教職員に向けて通知した。選挙・投票にかける病院教職員の取り組みが真摯で協力的であったことや各部署の世話人

の貢献度が大きかったこと等により、98部署の投票率は、2月26・27日の代議員の選出選挙で82.5%、3月4・5日の従業員代表者の信任投票で79.6%と良好であった。結果、代議員と従業員代表者はそれぞれ次のとおり(敬称略)である。

- 《代議員14名—選挙結果の公示 3月1日》
事務職員3名：末武伸住、石川フサ子、岡根洋子
教員・医師4名：森 芳久、原田賢治、田中潤一郎、大西 真
技術職員2名：曾根伸治、佐藤春雄
看護職員5名：高橋雪子、長島千代美、清野(下左近)寿美、相馬光代、野上順子
《従業員代表者 5名—選挙結果の公示 3月8日》
代表：大西 真
副代表：末武伸住、曾根伸治、高橋雪子、清野(下左近)寿美



代表の大西 真 (医療評価・安全研修部 助教授)

2月18日(水)
リスクマネジメント研修(講演会)
時間：19:10~20:40
場所：入院棟A15階 大会議室
講師：前田正一氏(医学系研究科講師)
演題：「事故はゼロにできないが紛争はゼロにできる～医療事故に伴う法律上の問題と院内における早期解決の意義～」
【医療安全管理対策室】

2月19日(木)
文部科学省主催 第3回 産学連携フォーラム
—医学2004—に参加
この日、日本科学未来館で行われ、糖尿病、代謝内科の 門脇 孝 教授が、「生活習慣病の分子標的薬の開発」をテーマに研究内容のプレゼンテーションを行った。

2月20日(金)
21世紀 COE「環境・遺伝素因相互作用に起因する疾患研究」シンポジウム(第1回)
時間：13:30~16:30
場所：医学部鉄門記念講堂(教育研究棟14階)

【プログラム】
13:30~13:40 拠点リーダー挨拶：永井良三
13:40~14:10 アディホネクテンと生活習慣病の分子メカニズム
門脇 孝 座長：中村耕三
14:10~14:40 神経細胞変性の分子病態機序
辻 省次 座長：中村耕三
14:40~15:20 自然免疫による病原体認識システム
電良静男 座長：門脇 孝
15:20~15:40 休憩
15:40~16:30 パネルディスカッション
「21世紀 COE プログラムのめざすもの」

《パネリスト》
電良静男 大阪大学微生物病研究所
辻 省次 東大医学系研究科
門脇 孝 東大医学系研究科
永井良三 東大医学系研究科(司会)

3 巻 14 版 2004年(平成16年)2月26日 木曜日
神経細胞の構造に違い
筋萎縮性の難病ALS
東大グループ発表原因解明に光明
2月26日(木) 朝日新聞朝刊総合面より

2月26日(木)
研究発表及び新聞・TV・ラジオ報道
神経難病である筋萎縮性側索硬化症の病因にグルタミン酸受容体のRNA 編集異常が関与していることを神経内科 郭 神 助教授らが突き止めた。この論文は Nature 2004年2月26日号(427巻801頁)に掲載された。(上の新聞記事参照)

3月2日(火)
第3回東大研究倫理セミナー
時間：17:00~19:30
場所：医学部鉄門記念講堂(教育研究棟14階)
司会：小俣政男 病院臨床試験部長
北村 聖 病院総合研修センター長

【プログラム】
あいさつ：小俣政男(病院臨床試験部長)
基調講演
「医療倫理と法」について
樋口範雄(東京大学大学院法学系研究科教授)
講演1：医学系研究科・医学部における研究倫理審査体制と受講の義務化について
大内尉義(医学系研究科・医学部倫理委員会委員長)
講演2：研究倫理審査を受けるための手続き
徳永勝士(医学系研究科・医学部ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会委員長)
講演3：臨床研究における個人情報管理
大江和彦(ヒトゲノム・遺伝子解析研究個人情報管理者、病院診療情報管理委員長)
講演4：病院における臨床研究-IRB と臨床試験部の活動
荒川義弘(病院臨床試験部副部長)
まとめ：大内尉義(医学系研究科・医学部倫理委員会委員長)
主催：医学系研究科・医学部倫理委員会、ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会、治験審査委員会、臨床試験部、企画情報運営部、総合研修センター

3月5日(金)
第4回本郷緩和ケア研究会
開会：18:00
場所：入院棟A15階 大会議室
【プログラム】
開会の辞：緩和ケア診療部 中川恵一
一般演題：『東大病院緩和ケア診療部活動報告』
緩和ケア診療部 岩瀬 哲
特別講演：『ターミナルケアと緩和ケア：歴史と現状と未来』
国立がんセンター東病院緩和ケア病棟 志真泰夫 医長
共催：本郷緩和ケア研究会、東京大学医師会、大日本製薬株式会社

3月9日(火)・12日(金)
女性の尿もれ電話無料相談開設
悩んでいる人は40歳以上の女性の 2~3人に1人、尿もれのほとんどの症状は治せます。と

いうことで 2日間いずれも15時から17時、泌尿器科医師が相談対応者となり電話無料相談が開設された。

3月9日(火)
第3回 東大病院ミニコンサート
開演：16:45
場所：外来棟1階玄關ホール
演者：山崎知子(メゾ・ソプラノ)
伊集院紀子(ピアノ)
曲目：アメイジング・グレイス 他14曲
【医療サービス推進委員会】

3月11日(木)
平成16年度診療報酬改定に伴う院内説明会の開催
時間：17:30~19:30
場所：入院棟A15階 大会議室
内容：平成16年度診療報酬改定について
講師等：株式会社日本医療事務センター
医療開発部顧問 麻生玲子

3月11日(木)
第3回再生医学カンファランス
時間：18:00~19:00
場所：入院棟A10階 カンファランスルーム
演題：「造血幹細胞とその体外増殖法の開発」
担当：造血再生医療講座
小川 誠司助教授
【ティッシュ・エンジニアリング部】

3月12日(金)
医療安全ワークショップの開催
年1回病院全職員を対象に、医療安全について考え、討論することを目的とした医療安全ワークショップが18時から臨床講堂において開催された。

今回のワークショップは、九州大学大学院医学研究科(医療経済・管理学講座) 點澤純子助教授のご講演及び本院の医師、看護師、研修医とのディスカッションが行われた。
【医療安全管理対策室】

3月16日(火)
セクシュアル・ハラスメント研修会
時間：18:00~19:30
場所：入院棟A15階 大会議室
講師：総務部ハラスメント相談所相談員
高島克子
【総合研修センター】

3月18日(木)
「入村看護部長退官記念特別講演会」開催
時間：17:30~19:00
会場：入院棟A15階 大会議室
主催：看護師長会

東大キャンパスの“花鳥風月”

枝垂桜 (シダレザクラ)

江戸彼岸 (エドヒガン) の変種で枝が下垂するものを用いる。花期は3月から4月。花の色は白から紅まで多彩である。紅いものは特に紅枝垂 (ベニシダレ) という別名がある。

枝垂桜 (シダレザクラ) は、江戸彼岸 (エドヒガン) の変種からか、東京では春の彼岸に見頃となる。この頃は、ちょうど東京の学生たちの卒業時期と重なり、東大でも安田講堂で卒業式が行われる頃に満開となる。

式の前後には、きれいに咲いた枝垂桜を背景に、入れ替り立ち替り記念撮影していて、賑やかな歓声が響いている。この光景は、毎年この時期の変わることのない東大の風物詩となっていて、なんとも微笑ましい。

4月。卒業した東大生は社会に出て、学生ではな



くなった。守られたり支えられたりしていたものは無くなって、誰かを助けるために、自身が世の中の役に立つためにと、一人一人の責任のもとに自立して歩みます。

3月18日 (木)

東大病院版就業規則等の院内ホームページ掲載はじまる

法人化に伴う病院教職員に向けての新たな規則の周知が、この日の第1次案掲載を皮切りに始まった。

3月19日 (金)

報道機関関係者の病院見学

佐々木毅東大総長と各報道機関の論説委員、解説委員、編集委員及び記者との懇談会の一環として、学内2施設 (病院および武田先端知ビル) の見学依頼が、佐久間一郎東大広報委員会委員長よりあった。

病院内施設の見学コースは、外来棟ホール→病歴室→検査部→手術部→ICU→救急部→内科研究棟→医工連携部であり、報道関係者に病院の現状理解を深めていただいた。

渡邊浩副学長とともに見学に参加された報道関係者は次のとおり (敬称略) であった。

(報道機関名)	(職名または所属)	(氏名)
日本経済新聞社	編集委員	中村 雅美
朝日新聞社	論説委員	高橋真理子
	社会部教育班	田中 光
毎日新聞社	論説委員	瀬戸 純一
東京新聞社	論説委員	田中 良富
		日比野守男
	科学部	大島 弘義
共同通信社	論説委員	森平 暁
京都新聞社	編集部長	桑原 毅
東京大学新聞社	記者	小野里 拓
		松本 理想

3月22日 (月)

第4回東大病院臨床試験セミナー (公開セミナー) 開催

テーマ: 医師主導の治験・臨床試験とネットワーク

時間: 17:30~20:30

場所: 医学部専門記念講堂
(教育研究棟14階)

[プログラム]

- 挨拶: 臨床試験部部长 小俣政男
治験審査委員会委員長 藤田敏郎
病院長 永井良三
文部科学省高等教育局医学教育課大学病院指導室長 谷本雅男
- 〔第1部〕オーバービュー
1. 医師主導の治験・臨床試験の現状と今後の方向
医学系研究科生物統計学教授 大橋晴雄
〔第2部〕医師主導の治験と大規模治験ネットワーク: エビデンスの形成
2. 医師主導の治験制度と大規模治験ネットワーク
日本医師会治験促進センター
科学技術部長 内田毅彦
3. 小児領域の医師主導の治験・臨床試験
国立成育医療センター
治験管理室長 中村秀文
4. 循環器領域の医師主導の治験・臨床試験
国立循環器センター 第七循環器科医長 佐瀬一洋
5. 製薬企業から期待すること、協力できること
製薬協医薬品評価委員会
臨床評価部会長 長田徹人
〔第3部〕小規模ネットワークによる医師主導の治験: 探索的臨床試験
6. Development and Conduct of Investigator-initiated Clinical Trials: How to lead a trial to a success.
Clinical Research Associate, Sankyo Pharma Development, N.J.U.S.A 佐藤ゆか
7. 造血幹細胞移植領域における医師主導の治験
無菌治療部助手 神田善伸
8. 東大病院の医師主導の治験への対応
臨床試験部副部長 荒川義弘
- 〔総合討論〕
主催: 臨床試験部

4月1日 (木)

国立大学法人東京大学医学部附属病院となる法人化初日にあたり永井良三病院長は、院内ホームページを利用して全教職員に向け所信表明を行った。患者様中心の医療の実践などを柱とした内容である。

今後の予定

6月3日 (木)~4日 (金)

7th Seminar of the International Cooperative Study of Diagnostic Ultrasound and Prostate Cancer

場所: KKRホテル東京
内容: 前立腺癌と超音波診断に関する国際シンポジウムが行われます。各国の前立腺癌研究における権威を招き、2日間にわたって討議が行われます。
〔泌尿器外科学〕

発行 平成16年4月15日

発行人 永井良三

発行所 東京大学医学部附属病院

〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1

TEL 3815-5411

「東大病院だより」編集委員会

編集委員長 加我君孝

事務担当 総務課広報渉外係

連絡先 TEL 5800-9769

E-mail: kohoAI@adm.h.u-tokyo.ac.jp

編集協力 医療サービス課

印刷所 株式会社学術社

枝垂桜の写真提供

表紙の六義園と小石川後樂園は、(財)東京都公園協会。

表紙と裏表紙の東大安田講堂は、法文2号館地下 (株) 新光社。

東大病院だよりは、東大病院のホームページから見る您可以通过。 http://www.h.u-tokyo.ac.jp/newhp/gaiyo/dayori_index.htm
また東大病院だよりは、在庫ある限り、外来診療棟1階ロビー、入院棟A1階ロビー、東大広報センター (龍岡門横) の3ヶ所のパンフレットスタンドから自由にお持ち帰りいただけます。